

所沢市陸上競技選手権大会における大会満足度と再参加意欲について

The degree of game satisfaction and re-participating volition in a track-and-field game

1K03B197-7 山崎 靖隆

主査教員 木村 和彦教授 副査教員 磯 繁雄教授

*緒言

笹川スポーツ財団（SSF）が隔年で実施している「スポーツライフに関する調査」によると、わが国の年 1 回以上の運動・スポーツ実施者の割合は、最新の 2004 年の調査で 73.4%であった。また、この調査により年 1 回以上および週 1 回以上の運動・スポーツ実施率は、フランス、スウェーデン、オーストラリア、韓国の 4 カ国と比較することができた。わが国のスポーツ実施率は他の 4 カ国と比べて低く、最も実施率が高かったスウェーデン（89%）とは約 15 ポイントの差があった。

日本人はスポーツをしたくてもできない理由として、「忙しくて時間がない」と答えているが、果たしてそれが真の理由だろうか。スポーツイベントの主催者側が運営の評価という部分を軽視し活かしきれていないため、時間を割いてスポーツをしたいと思えるほどの魅力がそこにあるからだと思う。今後は競技やイベントの特性によって、より細分化された調査を行い研究していく必要があると考えられる。

そこで今回、第 7 回所沢市陸上競技選手権大会参加者・付き添い者に対しアンケート調査を行い、陸上競技の大会はどのようにしたら満足される大会になるのか、スポーツ実施者を増やしていくにはどうしたらいいのかを探っていく、今後の同大会やスポーツイベントの効果的な大会運営へと反映できるよう役立てていきたいと考える。

*調査概要

調査日時	2006 年 10 月 9 日（祝日）
調査場所	早稲田大学所沢校地織田幹雄記念陸上競技場
調査対象	第 7 回所沢市陸上競技選手権大会参加者・付き添い者
回収数・率	189 人・95%
調査技法	質問紙調査
回収	競技場周辺に 1 ヶ所回収ボックスを設置し、各自入れてもらう 可能な限りインタビュー形式で質問項目を聞き、その場で記入してもらう。

質問項目はフェースシート、個人属性、大会の評価、自由記述とし、大会の評価は大会の内容に関する具体的な質問に対し満足度を 5 段階評価をしてもらった。

*仮説

先行研究や選手の立場を考慮し、満足度と再参加意欲

に関する主な仮説を以下のように設定した。

- ・大会の満足度が高い人ほど、再参加意欲がある
- ・競技の結果への評価が高い人ほど、大会の満足度が高い
- ・役員の対応への評価が高い人ほど、大会の満足度が高い
- ・交通の便は、来年への再参加意欲に影響を及ぼす
- ・応援の人数・もりあがりは、大会全体の満足度・再参加意欲に影響を及ぼす

*結果と考察

基礎的なデータとして、フェースシート・個人属性について単純集計を行った。次に、大会全体の満足度に影響を及ぼす要因を明らかにするために、大会に関する具体的な評価について因子分析を行い、バリマックス法を用いてサービス評価の因子を抽出した。そして、得られたケース別因子得点を独立変数、大会全体の満足度を従属変数として重回帰分析を行った。同じ方法で、大会への再参加意欲に影響を及ぼす要因を明らかにした。また、自由記述は 3 つに分類しまとめた。検証の結果、以下のことが明らかになった。

- ・大会の満足度が高い人ほど、再参加意欲がある
- ・大会の満足度に影響を及ぼす要因を総体的な影響力の順番でみると、以下のようになる

大会プログラムの冊子＞グラウンドの状態＞役員の対応＞記録・結果の掲示方法＞種目数

- ・再参加意欲に影響を及ぼす要因については、今回の調査で設定した大会の評価項目では説明できない
- ・自由記述にはアナウンスに対する不満が多かった

*今後への提言

大会の満足度に影響を及ぼす大会プログラムの冊子や種目数を充実させることが重要となる。具体的には、過去の優勝記録を記載するなどがあるだろう。また、自由記述回答の不満が多かったアナウンスや表彰の対応など、初歩的な運営のミスを無くし、対応していくことは当然のことだと言える。

そして今回の調査では、再参加意欲に影響を及ぼすサービス評価項目は明らかにすることができなかった。しかしこれを踏まえ、こういった調査を今後も繰り返し行っていくことで参加者のニーズを常に把握し、その上でさらに魅力のある大会を作り上げていくべきである。